

戦争のリアリズムから 再び動き始めた“改憲”を問う



島本慈子（しまもと・やすこ）さんプロフィール
ジャーナリスト。1951年10月大阪市生まれ。

漫画家の手塚治虫氏・大阪市長の橋下徹氏などと同じ大阪府立北野高校を出て、京都府立大学文学部卒業。雑誌記者として働いたのち、2001年フリーとなり、震災・労働・住宅・戦争などを取材。
阪神・淡路大震災について『倒壊——大震災で住宅ローンはどうなったか』を刊行した体験を踏まえ、東日本大震災をへた今年4月に『大震災で住宅ローンはどうなるのか』（筑摩書房）を出版。この最新刊では、全国の持ち家世帯に警鐘を鳴らしつつ、「地震大国に生きるということ」の意味を問いかけている。
著書に『ル・ポ解雇』『戦争で死ぬ ということ』『ル・ポ労働と戦争』（以上、岩波新書）など。

原発問題、消費税問題など見過せない課題が山積される中、憲法9条に関わる動きも活発化しています。例えば、「北朝鮮」の「人工衛星」打ち上げを好機とばかりに、PAC3・迎撃ミサイルを先島諸島に配備、自衛隊も配備して自衛隊駐留を既成事実化しようと目論んでいます。さらには、石原都知事の「尖閣諸島を東京都が買い取る」発言、橋下大阪市長の「維新版・船中八策」に見られる天皇元首発言、さらに、武器輸出3原則の緩和、「憲法審査会」の議論の進行など改憲に向けての動きも活発化しています。自民党は勿論のこと、民主党も大多数が改憲支持者で両党が結束すれば、憲法9条の改悪は一気に推し進められる状況です。

今、改めて戦争の悲惨さ、非情さ、不条理を見据え、憲法9条の原点に立つて考えたいと思います。島本慈子さんは、著書「戦争で死ぬ、ということ」、「ル・ポ・労働と戦争」で、戦争の現場、戦争の体験者の取材を通して、憲法改定への問題提起をされています。

島本慈子さん講演会

日 時：6月24日(日) 13:30~16:00
場 所：愛知大学車道校舎 (K201教室)

地下鉄桜通線「車道」駅1番出口1分

参 加 費：500円(学生無料)

共 催：第9条の会なごや／愛知大学九条の会

連絡先

◇第9条の会なごや：090-9171-6038(加藤) a9s-nagoya@mbn.nifty.com

◇愛知大学九条の会：jimukyoku@aidai9jo.sakura.ne.jp